

鎌倉市 横断歩道橋長寿命化修繕計画



平成28年3月



鎌倉市

平成27年度 鎌倉市「横断歩道橋長寿命化修繕計画」について

◇目的

横断歩道橋長寿命化修繕計画は「道路施設維持管理共同システム」を活用して策定したものであり、予防的修繕等の実施を徹底することにより、修繕・架替えに係る費用を縮減し、トータルとして横断歩道橋の維持管理費用の増大を抑制するものです。

◇管理計画

今後、増大が見込まれる横断歩道橋の修繕・架替えに要する費用を縮減する取り組みが不可欠となります。

横断歩道橋は、橋梁やトンネルに比べて規模が小さい道路施設であり、更新費用も道路橋に比べると比較的安価ですが、更新時の工事期間中には当該道路の交通規制や交通渋滞の発生、利用者（歩行者）の迂回路や安全性の確保など、社会的影響が大きい道路施設です。

そのため、損傷が軽微なうちから計画的に補修対策を実施する『予防保全型維持管理』を基本とし、極力、長寿命化を図るものとする。

なお、横断歩道橋は、歩行者と車道を分離する構造で歩行者の交通安全上重要な役割を果たしている道路施設であるが、高齢化社会を迎え道路の移動等円滑化整備ガイドライン及びバリアフリー新法に基づく施設の再整備について総合的に検討することとする。

◇横断歩道橋の点検及び計画の策定

健全度の把握については、「神奈川県市町村版定期点検要領（案）」に基づいて定期的に点検を実施し、横断歩道橋の損傷を早期に把握します。平成26年度から横断歩道橋点検を実施し、点検が完了した4橋について、長寿命化修繕計画を策定しました。

ただし、管理計画により再整備の検討を行う事が必要である。横断歩道橋の維持管理費用を縮減する観点から横断歩道橋の「存続」及び「撤去」についても関係機関や地元との協議により決定していくこととする。

◇計画

【修繕内容・時期】

計画策定した4橋のうち、今後6年間で健全度3（損傷あり）以下となる横断歩道橋は、優先順位の高い施設から修繕を実施し、維持管理費用の縮減と長寿命化を図ります。

※上記の修繕については、今後、定期点検を実施していく過程で確認される損傷に応じて、優先的に補修工事を要する場合などもあり、固定されるものではありません。

【計画実施により見込まれるコスト縮減効果】 ※対象:横断歩道橋 4 橋

- ・長寿命化修繕計画に基づき修繕を実施した場合の費用（2115年までの総費用）約 3.34 億円
- ・従来の対症療法的な修繕を実施した場合の費用（2115年までの総費用）約 5.14 億円
- ・コスト縮減効果 $5.14 \text{ 億円} - 3.34 \text{ 億円} = 1.8 \text{ 億円}$ （約 35%の縮減効果）

※上記費用はおおよそのものであり、今後、橋梁の点検データを蓄積していくことで、さらなる精度向上が図れるため、現在の値に固定化されるものではありません。

目 次

1. 長寿命化修繕計画の目的	1
2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁	1
3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針	2
4. 対象横断歩道の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針	2
5. 対象横断歩道橋ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期	3
6. 対象横断歩道橋の長寿命化及び修繕に係る費用の縮減に関する基本的な方針	3
7. 横断歩道橋の管理方針に関する基本的な方針	3
8. 長寿命化修繕計画による効果	3
9. 計画策定担当部署および意見聴取した学識経験者等の専門知識を有する者	5

1. 長寿命化修繕計画の目的

1) 背景

○管理する横断歩道橋は、平成28年3月現在4橋あり、日常パトロール等により適切な維持管理に努めてきました。しかし、高度経済成長期に集中して整備されたため、今後、建設50年を経過する高齢橋の割合が急速に増加し、老朽化による架替え費用が増大することが予想されます。

○しかし、厳しい財政状況が続くなかで、合理的・効率的な手法による横断歩道橋の維持管理が強く求められています。

○そこで、維持管理費のコスト縮減や横断歩道橋を適切に管理することを目的とした「横断歩道橋長寿命化修繕計画」を策定する。

○長寿命化修繕計画の基本方針は、従来の管理手法である「事後保全」から「予防保全」へ管理手法の転換を行うとともにアセットマネジメントの手法を導入し、横断歩道橋の効率的な管理を行いコスト縮減を図ることとする。

2) 目的

○横断歩道橋の長寿命化や維持管理費用のコスト縮減を図るためには、劣化が顕在化したあとに対策を行う「事後保全の管理」ではなく、劣化の兆候がまだ現れていないか、あるいは現れ始めた時期に、予防的に修繕を行い、対策規模が大きくなることを避ける「予防保全の管理」を着実に行う必要があります。

○定量的なデータの蓄積を行ったうえで、予防保全によって横断歩道橋の長寿命化を図り、保全・更新費を低減、平準化することにより、将来にわたって、適切な機能水準を維持するための計画を策定するものです。

3) 横断歩道橋の管理について

○長寿命化修繕計画による「予防保全」を確実に実行することで、維持管理費用の縮減を図ることができる。ただし、利用頻度の少ない横断歩道橋については、「存続」・「撤去」について、地元や関係機関との調整により方針を定めることとする。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	緊急輸送路	幹線道路	跨線橋	その他	合計
全管理横断歩道橋数		3	1		4
H27年度計画の対象橋梁数		3	1		4

※幹線道路は、国道、県道、市町村道（1級、2級）である。

3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度の把握の基本的な方針

健全度の把握については、横断歩道橋の架設年度や立地条件等を十分考慮して実施するとともに、神奈川県市町村版定期点検要領（案）【横断歩道橋】に基づいて定期的の実施し、横断歩道橋の損傷を早期に把握します。

また、点検結果から横断歩道橋の状態把握や評価、管理目標や修繕における優先順位を決定するために、横断歩道橋の状態を数値化で表現できる指標を要求性能別に設定し、横断歩道橋の健全度を的確に管理します。

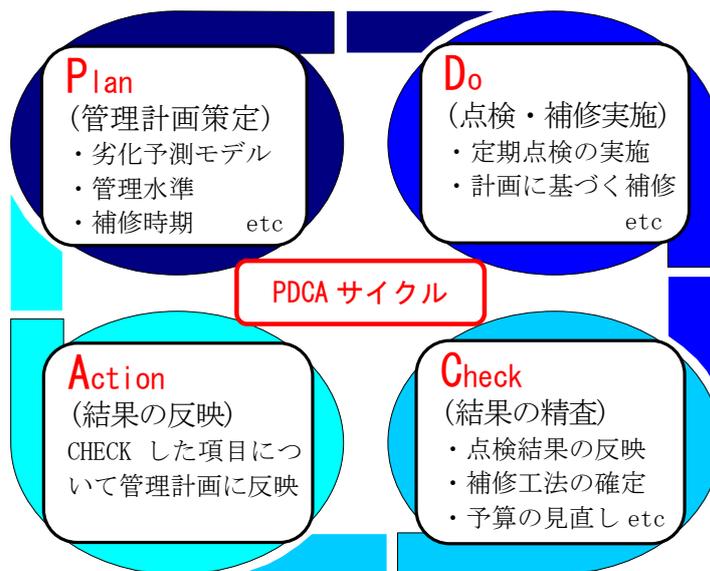
2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

横断歩道橋を良好な状態に保つため、日常的な維持管理として、パトロール、清掃などの実施を徹底します。

4. 対象横断歩道橋及び修繕に係る費用の縮減に関する基本的な方針

予防的な修繕等の実施を徹底することにより、修繕等に係る費用の低コスト化を図り、トータルとしてのライフサイクルコストの低減を目指します。

また、PDCAサイクルを確実に実行することで、計画的な維持管理を実施していくこととします。



※計画的な維持管理を実施するため、横断歩道橋に関する「諸元」や「点検結果」の蓄積、「補修履歴」等のデータ蓄積が必要となります。そのため、「道路施設維持管理共同システム」を活用し、横断歩道橋の点検結果や補修履歴等を蓄積し検証することにより、横断歩道橋の健全度指標値や部材の耐用年数及び劣化予測式を見直し、効率的な維持管理を実施します。

5. 対象横断歩道橋の次回点検時期及び修繕内容・時期又は架替え時期

対象横断歩道橋4橋については、次回の点検時期と今後6年間で対策する橋梁や修繕内容については、次のとおりです。

○次回の横断歩道橋点検について

横断歩道橋点検は、神奈川県市町村版定期点検要領（案）【横断歩道橋】により実施します。

平成26年度から実施した横断歩道橋点検は、5年毎に近接目視による定期点検を実施することを基本とします。

○横断歩道橋の修繕内容・時期については、定期点検や道路パトロール等の結果に基づき修繕を計画します。

平成26年度から実施した横断歩道橋点検結果で主要部材の健全度ランクが「2」以下と判定された横断歩道橋は、計画策定後、6年以内に修繕を実施することを基本とします。

6. 対象横断歩道橋の長寿命化及び修繕に係る費用の縮減に関する基本的な方針

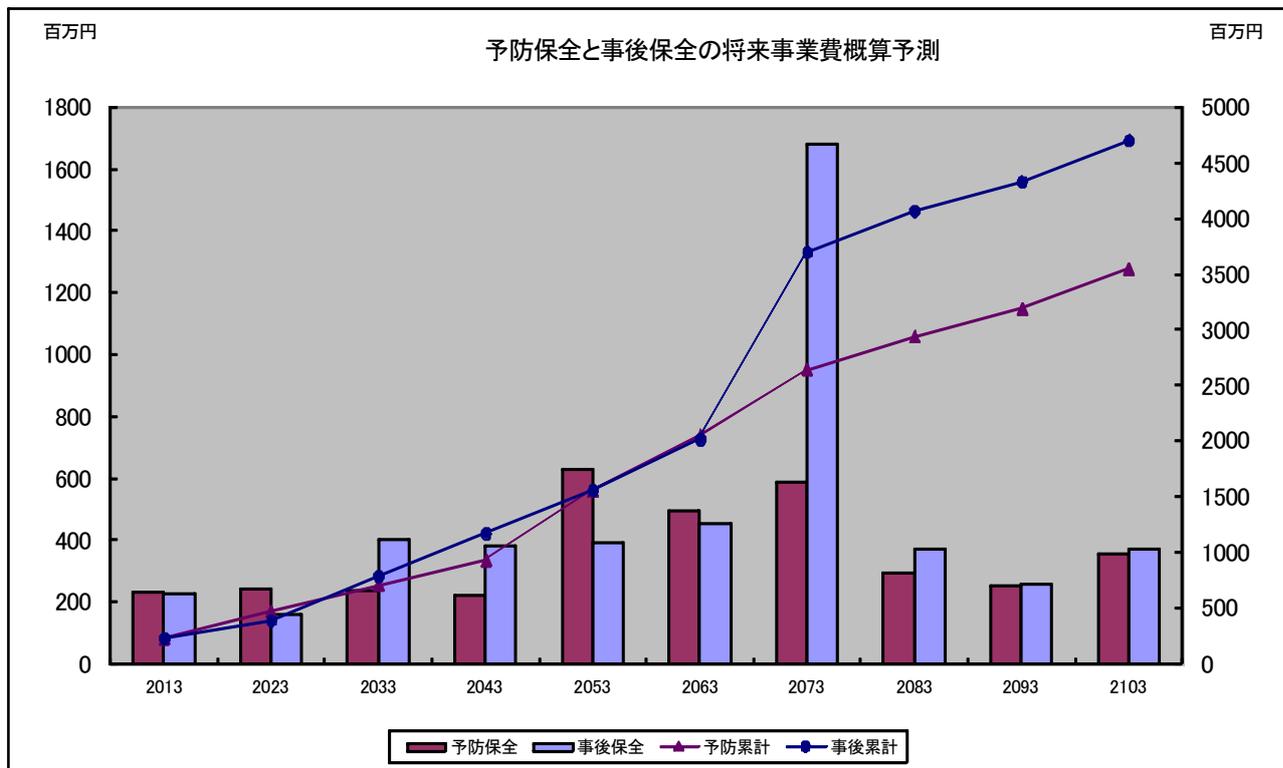
予防的な修繕等の実施を徹底することにより、修繕等に係る費用の低コスト化を図り、トータルとしてのライフサイクルコストの低減を目指します。

7. 横断歩道橋の管理方針に関する基本的な方針

横断歩道橋の管理計画により再整備の検討を行う必要がある。利用頻度の少ない横断歩道橋については、「存続」及び「撤去」についても関係機関や地元との協議により決定していくこととする。

8. 長寿命化修繕計画による効果

○修繕及び架替えに要する経費については、2115年までに5.14億円→3.333億円
(1.8億円の縮減)となり、35%の縮減が見込まれる。



※上記経費の算出については、今後、横断歩道橋の定期点検データを蓄積していくことで、さらなる精度向上が図れるため、現在の値に固定化されるものではありません。

